羽黒山神社梵天祭り　A・2

五穀豊穣・家内安全を願って、梵天を羽黒山神社に奉納する秋の例祭です。江戸時代中期に収穫を感謝する行事から始まったといわれます。「梵天」とはもともと修験や祈祷の幣束を竿の先に結びつけたものが原型で、後に麻やカンピョウ・繭・檜のかんな引き・和紙などの特産品で作った房を付けるようになり、現在では竹をつないだ15mほどの竿に和紙やビニールで房が作られています。

梵天は、今里から羽黒山神社まで、3kmほどの参道を練り歩き、神社に奉納されます。

関白獅子舞(天下一関白神獅子舞)　■　B・2

県下に広く分布する関白流獅子舞の始祖とされます。関白山神社に家内安全・厄難消除の舞として、毎年8月第一土曜日に奉納されます。

「都から賊退治を任じられた藤原利仁公の葬儀のおり、一天にわかにかき曇り、辺り一面闇夜のようになったので、3匹の獅子を舞わせたところ、天候が戻った」という伝説に由来します。

関白獅子舞は、神社境内に四方のしめ縄を張り、中にモミガラを撒いたところで、腹につけた小太鼓を打ち鳴らしながら雄２匹、雌１匹で舞う一人立三匹獅子舞です。御子舞は賊を鬼に、利仁公と家臣が獅子となって鬼を退治する物語になっています。

[昭和52年7月29日　県指定]

天下一関白流神獅子（逆面獅子舞）　■　C・2

毎年「盂蘭盆会」（現在は8月15日）と八朔（旧暦8月1日）に五穀豊穣・子孫繁栄・家内安全を祈願して逆面の白山神社に奉納される、関白獅子舞の流れを汲む一人立三匹獅子舞です。

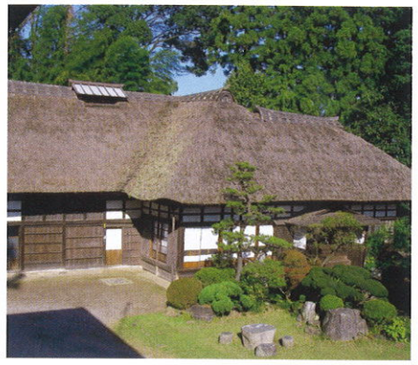
慶長5（1600）年、徳川家康の命により、逆面が宇都宮大明神（二荒山神社）の神領に寄進されて、諸役御免の恩典にあずかったことに感謝して、獅子舞を奉納したのが始まりです。

[昭和45年4月1日　市指定]

天下一関白流御神獅子舞（中里西組獅子舞）　■　B・1

毎年8月15日に、五穀豊穣・国家安泰を祈願して、中里

岡本家住宅・長屋門　E・2



江戸時代中期の建築です。主屋が南に向かって建ち、中央に玄関、東側に客間・座敷を配し、その西北に寝室や馬屋・勝手・風呂場を設け、正面の玄関奥と裏の寝室が屋根続きとなっています。この建物の特徴は、茅葺き屋根の２棟が並んだ形で、軒付下には色違いに稲・麦藁を段違いに重ね、小屋梁は細かい曲材を用いています。玄関・客間・座敷等建てられた時のままでよく保存され、長押の釘隠し等も特徴的です。ただし、屋根の煙出しは後世のものと思われます。

長屋門は同年代のものとして貴重な建造物です。

[昭和43年4月25日　国指定]

※見学には、所有者の許可が必要です。

彫刻屋台と天棚

彫刻屋台には周囲に、華麗な彫刻が所狭しと飾られ動く陽明門とも形容されています。一般に下野型屋台・野州型屋台と呼ばれ、本屋台とも称されます。車輪の位置が上台輪の内側のものは内輪式、外側のものは外輪式とに分けられ、内輪式は鹿沼に多く見られます。また、彫刻の色彩によっても分けることが出来ます。

天棚とは、五穀豊穣・風雨順調・家内（村内）安全を祈る天祭における中心施設であり、車のない二階建彫刻屋台形式で、天祭に合わせて組み立てられます。宇都宮市近辺にしか存在しない珍しいもので、江戸中期頃より作られるようになりました。1階部分はお囃子を奏でる「囃子場」、2階部分は日天・月天などを祭る祭壇になっています。1階部分の前部に屋根が突き出したものとそうでない型が存在します。

白沢南彫刻屋台

文化13（1816）年から文政３(1820)年に現在の鹿沼市で製作された、内輪式漆塗り彫刻屋台です。

鬼板には獅子の蹴落とし、懸魚には大きな牡丹の彫物がみられ、高欄下は波に鯱と水龍、欄間などは小桜の技法を活かした花鳥彫りとなっています。また脇障子に施された鉄線花の透かし彫りは、完成度の高さが評価されています。　[平成2年12月6日　市指定]

西下ケ橋彫刻屋台

外輪式彩色彫刻屋台です。

柱隠しには木鼠と葡萄・鶴の巣篭もり、障子回りは桜を主体にした花木、外欄間は菊、高欄下は力強い板書きの波で色鮮やかに彫られています。特に、正面の蹴込は子獅子がたわむれる透かし彫りの玉などに、彫刻の技術の高さを見ることができ、鬼板と懸魚の龍は華麗なものとなっています。　[平成３年３月20日　市指定]